洋上アルプス

No.309　2020年12月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター

バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/

鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL0997-42-0331　FAX0997-42-0333

東北森林管理局と世界自然遺産地域におけるシカ対策等について意見交換　（11月4～6日）

屋久島森林生態系保全センターの職員3名は、世界自然遺産地域におけるシカ対策や利用のあり方等について意見交換を行うことを目的に東北森林管理局管内に出張しました。1日目は東北森林管理局において同局計画課の自然遺産保全調整官からシカ対策について、自動撮影カメラによる生息状況調査や食痕調査、囲いワナによる捕獲の取組などの説明がありました。

藤里保全センター所長による
岳岱自然観察教育林の説明

藤里森林生態系保全センターにて
意見交換会

2日目は十二湖自然休養林や岳岱（だけだい）自然観察教育林においてブナの天然林について説明を受けました。最終日は藤里森林生態系保全センターにおいてセンター職員と意見交換を行いました。

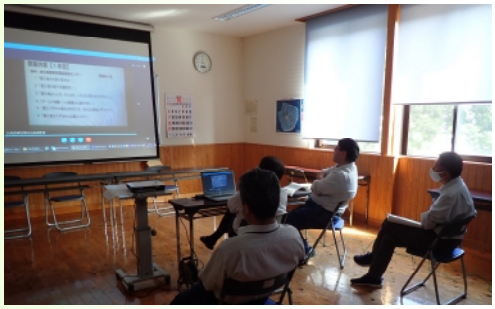
「白神のシンボル」
樹齢400年のブナの古木

白神山地では、世界自然遺産地域の核心地域への入山について、森林生態系保護の観点から厳しく制限されており屋久島における登山利用とは異なる取り扱いとなっていました。

今後とも、自然遺産地域における取組等について情報の共有を図っていくことを確認しました。

令和2年度　森林・林業の技術交流発表大会　（10月28日）

屋久島森林生態系保全センターと屋久島森林管理署は令和２年度森林・林業の技術交流発表大会において、「国有林野事業をベースとした森林環境教育の推進～屋久島版～」と題して発表しました。



屋久島森林管理署会議室で発表を傍聴

今年度の発表大会は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン方式での発表となりました。

当保全センターと屋久島森林管理署が平成30年度より取り組んできた「屋久島森の塾」の成果と課題等を８分間という時間設定の中での発表でした。残念ながら賞をいただくことはできませんでしたが、当保全センターや屋久島森林管理署が行っている様々な取組については、今後とも内外に対して積極的にアピールしていくこととしています。

安房中学校 森林教室

◆第1回　校庭の植物観察・シカと森林のカードゲームで屋久島の森を考える（10月28日）

屋久島森林生態系保全センターでは、安房中学校からの依頼を受け、1年生（25名）を対象に森林教室（出前授業）を2回に分けて実施しました。

1回目は当保全センターが行っている仕事の説明と校庭にある植物を観察しながら屋久島固有の植物や外来植物について説明を行いました。後半は、5班に分かれ「シカと森林のカード（屋久島版）」を使ったゲームを行い、シカの影響により屋久島の森林がどのように変わっていくのかを各班で話し合い発表しました。生徒達からは、「校庭にある植物がよく分かったことやシカと森林のカードゲームで屋久島の森を考えるのにとても良く理解ができた」などの感想が聞かれました。

校庭で植物の説明を真剣に聞く生徒達

シカカードで屋久島の森を考える

最後に、携帯トイレの使用方法について説明を行いましたが、これは、2回目の森林教室を11月13日に小杉谷小・中学校跡地で行うための事前準備として実施したものです。

◆第2回　小杉谷の歴史と林業遺産＆丸太切り体験（11月13日）

屋久島森林生態系保全センターと屋久島森林管理署と共催で、安房中学校1年生に対する2回目の森林教室を実施しました。

今回は、荒川登山口より2.7kmの森林軌道を歩いて登り、小杉谷の小中学校跡地において植物観察や森林軌道などの林業遺産及び小杉谷の歴史などについての講義を行いました。

丸太切りに挑戦する生徒達

林業遺産について説明を聞く生徒

午後からは樹木に親しむとして、スギの木の高さや大きさの測定を行い、実際に鋸を使ってスギの木の伐倒や丸太切り体験をしました。

小杉谷に行ったことがない生徒が大半だったため、初めて見る森林軌道やトロッコにとても興味津々でした。初めて鋸を使用した人も多く、慣れない手つきでの丸太切りでしたが、なかには家の手伝いで鋸を使用して上手な中学生もいて職員を驚かせていました。苦戦しながら切った丸太を記念に持ち帰っていました。

最後に屋久杉自然館の敷地内に平成28年度及び平成29年度に安房中学校の先輩達が植栽した「リンゴツバキ」を見学、リンゴツバキとツバキシギゾウムシの共進化の説明を受けました。

今後も様々な体験メニューを考え、屋久島の子供たちへ屋久島の森林・林業について伝えていきたいと考えています。

岳参りの実像　（第３回）

中川正二郎（宮之浦岳参り伝承会 代表）

石楠花は言わば神の化身ですから、受け取った家では床の間に飾り、大切に扱います。戦後、石楠花の持ち帰りが林野庁や環境庁(旧)から厳しく規制されましたが、岳参りこそが山(自然)を大切にする日本人本来の考え方(環境思想の原点)であること、また海の砂を神に届けることと里に花を持ち帰ることは一対で、どちらが欠けても岳参りとして成立しないことをご理解いただき、現在は特別にご配慮いただいています。

写真5. 石楠花の中を進む所願たち
（大沢成二撮影 ）

花之江河には天保十五年(1844)に宮之浦二才中(青年衆)が建立した祠があり、そこへ全員が揃ったら山中最後のお参りです。塩、米、焼酎、砂一本を供えて、所願の号令の下、二拝、二拍手、合掌。これで宮之浦岳、永田岳(遥拝)、栗生岳、花之江河と４ヶ所お参りしたことになります。

15 時頃には全員が淀川登山口に下ります。ここで重要な儀式「サカムケ」をします。山と里との境界で行なわれるお迎えの儀式で、本来は宮之浦なら牛床詣所(うしどこもいしょ)か山口神社で行なわれるべきものです。簡素な食べ物や飲み物で出迎えるのですが、これは単なる慰労ではなく、厄落とし的な意味を持つものです。境界から先は八百万の神々や魑魅魍魎(ちみもうりょう)の棲む世界です。岳参りの一行にそれらが取り付いているかもしれず、そのまま村に入れると思わぬ災いを招き入れることになります。そこで、参加者に何かを食べさせて正気に戻し、神やもののけ達には本来いるべき所へ帰っていただくのです。

楠川地区では、集落はずれの正木の森という小山で、お坊さんにお払いをしてもらってから村に入れます。他の地区でも山から直接帰宅せず、神社なりに寄ってから帰宅すると聞きます。また私達はサカムケにそうめんを食べますが、湯泊では短冊切りにした刺身と漬物を食べる風習が残っており何か意味があると思われます。ちなみにサカムケはよく「坂迎え」と書かれますが、その場所は必ずしも坂でもなく、山と里との境界ですから「境迎え」が適切な表現だと言えます。

さて、車で1時間、宮之浦区公民館へ。出迎えの区長や婦人会の方々に花を渡し、お礼のぼた餅をいただきます。これがマチムケ(待ち迎え)で、宮之浦では煮しめやぼた餅で花の返礼をするのが習わしです。昨年より、公民館までの残り1kmを法螺貝を吹きながら歩き、途中で小中高生代表にマチムケをしてもらっています。岳参りの姿を人々に見てもらうことと、子供達に伝統文化の一端に触れてもらうことが目的で、岳参りを未来に繋ぐための布石です。

写真6. 床の間の石楠花

最後に神社へ戻り、神殿に花を供え、無事のお礼参拝をします。宮司さんからお神酒をいただき、すべての行程が終了。一旦帰宅して汗を流し、公民館で慰労のウチムケ(家？内？迎え)となります。地魚、竹の子、鹿肉など海里山の幸が婦人会の手作り料理となって並び、これが岳参り参加者の楽しみであり、唯一のご褒美です。

翌日、お賽銭を預かった方々と関係機関、そして牛床詣所へ花を届けます。年配の方々は、さも神様を迎えるかのように受け取られます。床の間に飾られた石楠花はすぐに花開き、花終えた後も葉は一、二ヶ月、長いと半年蒼さを保ちます。やがてしおれたら感謝して土に返します。

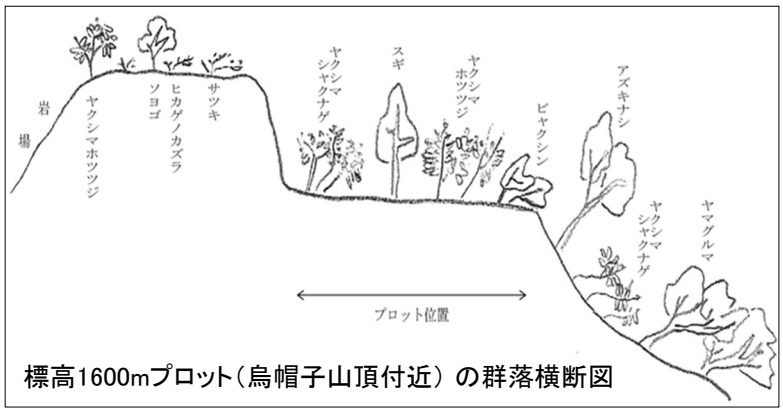
「岳参りせずして屋久のニセ(青年)と言わず」屋久島の心をつないで欲しいものです。最後に、宮之浦の岳参りには、他地区の方々による教えが多くあります。心より感謝申し上げます。(おわり)

屋久島生態系モニタリング

屋久島南部等地域の垂直方向植生モニタリング（平成30年度）

●標高 1600m プロット（烏帽子岳山頂直下） 烏帽子岳山頂直下の露岩の多いやせ尾根上の低木林に設定。著しい風衝地で、矮性化したスギ亜高木が優占する針葉樹天然林。

［調査結果概要］ 確認種数：52 種（H25 年度：50 種）目立った食害は確認されないが、ヤクシカの糞が山頂で見つかり、本調査地でもヤクシカの採食が行われている可能性がある。林内はヤクシカ不嗜好植物のヤクシマシャクナゲが、平成 20 年度の調査から徐々に亜高木層に達し、低木層でも優占種となっている。面積が広くて分厚い大きな葉を広げるため、その被陰下では一層照度が低く、生存できる植物種は限定される。



標高1600mプロット（烏帽子山頂付近）の群落横断図

［優占種の変化］

階層区分	平成15年度	平成20年度	平成25年度	平成30年度
高木層（4.0m以上）	―	―	―	―
亜高木層（2.0m～4.0m）	スギ	スギ	スギ	スギ
低木層（0.5m～2.0m）	ヤクシマシャクナゲ	ヤクシマシャクナゲ	ヤクシマシャクナゲ	ヤクシマシャクナゲ
草本層（0.5m未満）	ヒメカカラ	ヒメカカラ	ヒメカカラ	ヤクシマシャクナゲ

●標高 1634m（烏帽子岳山頂）の植生 烏帽子岩から 50m 程度北東方向に登った場所。山頂付近（山頂から 20 ～ 30m 範囲内の尾根上）は、花崗岩露岩上に生育する風衝樹形の矮生林で、樹高 2m 以下の低木や草本類が多い。出現する多くの種が、分布上貴重な植物である。

●標高 1488m（七五岳山頂付近）の植生 七五岳山頂及びその周辺には、ケイビラン、ヤクシマイトラッキョウ、アカマツ、イソノキ、ミヤマビャクシン、オオヤマレンゲなど分布上貴重な植物が確認される。

Recreation Forests of JAPAN 自然休養林情報　ヤクスギランド③ いにしえの森コース

いにしえの森コースは、標高約1000mから1010m、延長約1.2km、所要時間約50分のコースで、木道と石張歩道で整備された歩きやすいコースとなっています。

ふれあいの径コースとの分岐から約180m進むと右に見えるのは「荒川橋」です。「荒川橋」は吊り橋で、橋の下を流れる川は透き通って迫力があります。その川の力によって石が転がり作り出された大きな丸い穴、ポットホールも見られます。

橋の手前から約150m進むと、推定樹齢1800年、樹高21.5m、胸高周囲8.0mの「仏陀杉」に到着します。「仏陀杉」は、コブが多くてゴツゴツとした樹幹と風貌からその名で呼ばれています。この名前からでしょうか、昔は石塔の持ち込みがあったそうです（屋久杉巨樹・著名木より）。

仏陀杉

仏陀杉から約220mでふれあいの径コースと再び合流します。歩を進めると、江戸時代に加工しやすい木目か確かめた「試し切り」の跡が残る土埋木★が谷側にあります。数百年続く人と森との関わりに思いを馳せながら約10分。くぐり杉を通って清涼橋を渡ると出口です。

★土埋木（どまいぼく）…（江戸時代の切り株や残材など）

Yakushima Recreation and Forest Conservation Management Committee